

2024 年度事業報告

公益財団法人鈴木万平糖尿病財団は、「糖尿病分野に関する研究者の国際的研究交流を助成し、あわせて我が国における同分野の研究者の育成を図ることにより、糖尿病学研究の一層の推進を図り、もって学術の向上発展に寄与する」ことを目的として、定款第 4 条に定める事業を実施している。

2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）は、基本財産及び特定資産等の運用益並びに特定資産の取り崩しにより次に掲げる事業を実施した。

1. 定款第 4 条に定める公益目的事業

助成事業（公 1）	(1) 糖尿病の研究に従事する研究者の海外留学に対する助成 (2) 糖尿病の研究に従事する外国人研究者の招聘に対する助成 (3) 糖尿病に関する会議・シンポジウムに対する助成 (4) 糖尿病に関する調査研究に対する助成
褒賞事業（公 2）	糖尿病の予防・治療等における国内の優れた業績に対する褒賞
褒賞事業（公 3）	糖尿病に関する国内外の優秀な研究実績に対する褒賞

2. 2024 年度公益目的事業

助成事業及び国内褒賞事業については、2023 年度第 2 回理事会（2023 年 12 月 13 日）及び 2024 年度第 2 回理事会（2024 年 12 月 19 日）において承認された内容に基づき実施した。

2024 年度も財団設立 30 周年を機とした拡充の継続により、認知度向上施策として日本糖尿病学会年次学術集会における展示ブースの出展および医療施設へ直接募集ポスターの送付（郵送）や過去海外留学助成対象者（既帰国者）への Web メールによる案内を実施したが、今年度より「財団紹介ビデオ（3 分、30 秒バージョン）」を作成し、第 67 回日本糖尿病学会学術集会（5/17-19）を皮切りに、7 学会 1 地方会において上映依頼し、2024 年度だけでなく、それ以降の応募数増加のために活用した。

2024 年度の海外留学助成決定者は 5 名であり、全員無事に年度内に留学が開始された。若手研究者調査研究助成は、前年同様募集数を 15 件程度としたが、44 件の応募があり、最終的に 24 件を採択した。調査研究に関しては今回より従来のヒト主体の調査研究 A に加え、基礎主体の調査研究 B を加えた 2 分野で募集したが、A は新規 5 件（応募 9 件）、B は 3 件（6 件）採択された。

会議・シンポジウムに関しては 2 件採択されたが、Web ハイブリッド開催は 1 件もなく、全て現地開催（リアル）にて行われた。

2024 年度（第 17 回）鈴木万平糖尿病国内賞については該当なしとなった。

2024 年度（第 17 回）鈴木万平糖尿病国際賞については、2024 年 8 月 20 日開催の国際褒賞審査委員会で受賞候補者 1 名が選出され、2024 年度第 2 回理事会（2024 年 12 月 19 日）において承認された。本賞の表彰式・受賞者記念講演会・記念パーティーは、2025 年 3 月 5 日に経団連会館にて現地開催した。

2024 年度公益目的事業の総括

公益目的事業	金 額	内 訳
助成事業		
海外留学助成 1.	37,500,000 円	2024 年度新規分 (@750 万円×5 名)
同 上 2.	43,375,000 円	2023 年度継続分 (@650 万円×6 名) 特別補填分(@100 万円×6 名) 一部返金あり△162.5 万円
外国人研究者招聘助成	0 円	応募無し@100 万円×0 件
会議・シンポジウムに対する助成	2,000,000 円	@100 万円×2 件
調査研究に対する助成 1.	22,420,000 円	2024 年度新規分 AB (@250 万円×8 件<前倒し1件>+@242 万円×1 件)
同 上 2	9,500,000 円	2023 年度継続分 (@250 万円×3 件 +@200 万円×1 件)
同 上 3.	11,490,000 円	2022 年度継続分 (@250 万円×3 件+ @200 万円×1 件+199 万円×1 件)
若手研究者調査研究助成	47,320,000 円	2024 年度新規分 (@200 万円×23 件+ @132 万円×1 件)
事業推進費・事業運営費	6,277,183 円	募集関連・事業運営費用
選考委員会・面接選考	3,592,541 円	開催関連費用
合 計	183,474,724 円	
褒賞事業（国内褒賞）		
第 17 回鈴木万平糖尿病国内賞	0 円	0 件（個人、団体ともに該当者なし） 正賞楯、副賞、記念品
第 17 回鈴木万平糖尿病国内賞表彰式	0 円	表彰式関連費用
事業推進費・事業運営費	5,699,047 円	募集関連・事業運営費用
第 18 回糖尿病国内賞審査委員会	1,035,072 円	開催関連費用
合 計	6,734,119 円	
褒賞事業（国際褒賞）		
第 17 回鈴木万平糖尿病国際賞	30,687,780 円	1 名 正賞楯・副賞・記念品
第 17 回鈴木万平糖尿病国際賞表彰式	12,318,881 円	表彰式関連費用
事業推進費・事業運営費・業務委託費	8,385,130 円	募集関連・事業運営・業務委託費用
第 17 回糖尿病国際賞審査委員会	2,390,989 円	開催関連費用
合 計	53,782,780 円	
総 合 計	243,991,623 円	

各公益目的事業の詳細は、附属明細書のとおりである。

附属明細書

1) 助成事業

海外留学助成 - 1 (2024 年度新規分 5 名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p style="text-align: center;">みお けいいちろう 三根 敬一 朗</p> <p style="text-align: center;">佐賀大学医学部 医学科</p> <p style="text-align: center;">肝臓・糖尿病・ 内分泌内科</p>	<p>研究課題： インスリン様ペプチド産生細菌の腸内共生が次世代の T1D へ及ぼす影響の解明</p> <p>研究項目： 最近、インスリン様ペプチドを産生する細菌が発見された。申請者らは「インスリン様ペプチド産生細菌の垂直伝播が次世代の T1D と関連する」との着想に至った。微生物の糖尿病誘発性に着目し、インスリン様ペプチド産生細菌の腸内共生が次世代へ及ぼす影響を解析することで、世代を超えた T1D 抑制を目指す研究を展開する。</p> <p>研究機関： Boston College</p> <p>研究指導者： Emrah Altindis</p> <p>留学期間： 自 2024 年 4 月 至 2026 年 3 月 (2 年間)</p>
<p style="text-align: center;">あおやま じろう 青山 二 郎</p> <p style="text-align: center;">東京医科歯科大学 医歯学総合研究科</p> <p style="text-align: center;">血管内治療学分野 (東京科学大学 脳神経機能外科学 分野)</p>	<p>研究課題： 単球マクロファージのタンパクシトルリン化が糖尿病誘導性動脈硬化症を発症する機序の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病が誘導する動脈硬化症に対しては糖尿病やその他生活習慣病の治療以外の内科的アプローチがない。本研究では単球・マクロファージのタンパクシトルリン化に注目し、これが動脈硬化症を発症・進展させる機序を解明することで、動脈硬化症の予防・治療における新規治療薬の開発につなげることを目的とする。</p> <p>研究機関： Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Aikawa Masanori</p> <p>留学期間： 自 2024 年 7 月 至 2026 年 6 月 (2 年間)</p>
<p style="text-align: center;">ひらた ゆう 平田 悠</p> <p style="text-align: center;">神戸大学 糖尿病・内分泌 内科学</p> <p style="text-align: center;">糖尿病・代謝・ 内分泌内科</p>	<p>研究課題： ミクログリアに着目した運動による糖尿病改善機構の本態解明</p> <p>研究項目： 糖尿病や肥満では脳内免疫細胞であるミクログリアの機能が低下し、運動はミクログリアの機能を改善する可能性が示唆されているが、そのメカニズムの詳細は明らかでない。本研究では、糖尿病および運動による脳領域特異的なミクログリアの機能変化やエピゲノム制御機構を解析し、運動による糖尿病改善機構の本態を解明する。</p> <p>研究機関： University of California, San Diego</p> <p>研究指導者： Christopher K. Glass</p> <p>留学期間： 自 2024 年 4 月 至 2026 年 3 月 (2 年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p data-bbox="193 510 336 555">いわま やすあき 岩間 康哲</p> <p data-bbox="193 633 368 701">大阪大学 医学系研究科</p> <p data-bbox="164 792 392 875">脳神経感覚器外科 学(眼科学)</p>	<p data-bbox="424 506 1506 566">研究課題： 毛細血管網を有する網膜オルガノイドの作成および糖尿病網膜症 <i>in vitro</i> モデルへの応用</p> <p data-bbox="424 577 1506 786">研究項目： 糖尿病網膜症(DR)は本邦における成人中途失明原因の第3位であり、増殖性変化が出現する前の病態解明・治療 介入が重要であるが、ヒト組織由来の適切なモデルは存在しない。本研究では生理的な毛細血管叢を持つ網膜オルガノイドを作製し、DR の病態を <i>in vitro</i> で再現し新規病態機序を探索することを目的とする</p> <p data-bbox="424 819 1027 853">研究機関： The Scripps Research Institute</p> <p data-bbox="424 891 879 925">研究指導者： Martin Friedlander</p> <p data-bbox="424 943 1262 976">留学期間： 自 2024年10月 至 2027年9月 (3年間)</p>
<p data-bbox="193 987 352 1032">あらかき ひろたか 荒木 裕貴</p> <p data-bbox="180 1115 381 1182">熊本大学 発生医学研究所</p> <p data-bbox="193 1323 368 1357">細胞医学分野</p>	<p data-bbox="424 987 1214 1021">研究課題： サルコペニアを促進する分子メカニズムの解明</p> <p data-bbox="424 1039 1506 1261">研究項目： 糖尿病患者に多いサルコペニアの分子メカニズムを解明するため、サルコペニアへの関連を示唆する実験結果が得られた Rrad に注目し研究を行う。マウスモデルで骨格筋での Rrad の過剰発現、欠損による筋力や Ca シグナリングの変化、網羅的、空間的遺伝子発現解析等を評価する。また、同様に Myc の関与についても解析を行う。</p> <p data-bbox="424 1279 1043 1312">研究機関： Biozentrum, University of Basel</p> <p data-bbox="424 1330 852 1364">研究指導者： Markus A. Rüegg</p> <p data-bbox="424 1382 1251 1415">留学期間： 自 2024年5月 至 2026年4月 (2年間)</p>

海外留学助成 - 2 (2023 年度継続分 6 名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p>シンジフン Shin Jihoon</p> <p>大阪大学 医学研究科</p> <p>糖尿病病態医療学 寄附講座</p>	<p>研究課題： 感染症による脂肪細胞機能異常と新規糖尿病発症機序の解明</p> <p>研究項目： ① 感染症における脂肪細胞の感染/機能破綻経路と全身代謝・病態への影響の検討 ② 感染症における褐色脂肪細胞及びベージュ脂肪細胞の防御・予防・治療的な作用可能性の検討</p> <p>研究機関： Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Shingo Kajimura</p> <p>留学期間： 自 2023 年 7 月 至 2025 年 6 月 (2 年間)</p>
<p>ふじもと まきのり 藤本 真徳</p> <p>千葉大学 医学部附属病院</p> <p>糖尿病代謝 内分泌内科 臨床試験部</p>	<p>研究課題： G6pc-high 肝細胞と Slc25a44 の代謝における役割を空間的遺伝子解析から明らかにする</p> <p>研究項目： 申請者は一細胞解析を行い、糖新生酵素 G6pc を高発現する肝細胞が、糖新生基質の輸送蛋白である Slc25a44 を高発現することを見出した。Kajimura 教授が開発した独自の Slc25a44 解析系、空間的遺伝子発現解析を用いて、Slc25a44 の機能を局在と共に解明し、新たな糖尿病治療標的を見出す。</p> <p>研究機関： Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Shingo Kajimura</p> <p>留学期間： 自 2023 年 7 月 至 2026 年 6 月 (3 年間)</p>
<p>ながい ようすけ 永井 洋介</p> <p>東京慈恵会医科 大学内科学講座</p> <p>糖尿病・代謝・ 内分泌内科</p>	<p>研究課題： KLF15 による糸球体エネルギー代謝制御機構の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病腎症の成因として腎臓における脂肪酸代謝異常が注目されている。申請者は糸球体においても脂肪酸利用障害が腎症進展に深く寄与することを報告した。本研究では、全身に広く発現し代謝制御に深く関わる KLF15 について、いまだ明らかではない糸球体エネルギー代謝制御機構への関与を明らかにすることを目的とする。</p> <p>研究機関： Brown University</p> <p>研究指導者： Mukesh K. Jain</p> <p>留学期間： 自 2023 年 4 月 至 2025 年 3 月 (2 年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p data-bbox="193 394 328 434">杉本 大貴</p> <p data-bbox="193 546 363 622">国立長寿医療 研究センター</p> <p data-bbox="181 734 379 766">予防科学研究部</p>	<p data-bbox="427 405 1430 719">研究課題： 高齢者糖尿病の認知症発症リスクスコアの開発と脳病理の解明 研究項目： 糖尿病に合併する認知症は、加齢や家族歴などの古典的リスクと高血糖や重症低血糖の既往など糖尿病に起因するリスクが集積することで脳病理が促進され認知症へ進展するとされている。本研究は、糖尿病の認知症発症を予測するリスクスコアを作成するとともに、剖検脳を用いてリスク集積により進展する脳病理を明らかにする。</p> <p data-bbox="427 734 959 766">研究機関： University of Washington</p> <p data-bbox="427 781 810 813">研究指導者： Paul K. Crane</p> <p data-bbox="427 828 1289 860">留学期間： 自 2023年10月 至 2025年3月（1.5年間）</p>
<p data-bbox="193 873 328 913">大森 一乃</p> <p data-bbox="209 981 352 1057">北海道大学 医学研究院</p> <p data-bbox="209 1146 352 1223">免疫・代謝 内科学教室</p>	<p data-bbox="427 884 1430 1104">研究課題： 糖代謝制御による糖尿病病態下の膵β細胞量保護の研究 研究項目： グルコキナーゼをはじめとする解糖系の酵素や膵β細胞の環境の調節によって糖尿病状態における代謝ストレスを軽減し、進行的な膵β細胞の障害、機能、膵β細胞量の低下を予防しうるかについて動物検体、及びヒト検体を用いて検討する。</p> <p data-bbox="427 1120 799 1151">研究機関： MAYO Clinic</p> <p data-bbox="427 1167 1018 1198">研究指導者： Aleksey V. Matveyenko, Ph.D.</p> <p data-bbox="427 1214 1251 1245">留学期間： 自 2023年4月 至 2025年3月（2年間）</p>
<p data-bbox="193 1305 328 1346">矢野 誠一</p> <p data-bbox="209 1480 352 1556">九州大学 医学研究院</p> <p data-bbox="193 1691 392 1722">病態制御内科学</p>	<p data-bbox="427 1294 1430 1653">研究課題： マクロファージの LXR を標的とした NASH、インスリン抵抗性および心血管疾患の予防・治療戦略の開発 研究項目： 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)と心血管疾患は糖尿病の主要な合併症である。近年 NASH と動脈硬化の共通病態として、肝臓と動脈壁のマクロファージにおける肝 X 受容体(LXR)の機能低下が示唆されている。留学先が最近見出した新規 LXR リガンドの作用機序や有用性、インスリン抵抗性への影響を検討する。</p> <p data-bbox="427 1668 1075 1700">研究機関： University of California San Diego</p> <p data-bbox="427 1715 900 1747">研究指導者： Christopher K. Glass</p> <p data-bbox="427 1762 1294 1794">留学期間： 自 2023年4月 至 2026年3月（3年間）</p>

外国人研究者招聘助成（2024年度 0件）

なし

会議・シンポジウム助成（2024年度 2件）

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数/主催機関
第38回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会 2025年3月28日～3月29日 ニューオータニイン札幌（札幌市）	横浜市立大学分子内分泌・糖尿病 内科学教室 教授 寺内 康夫（てらうち や すお）	300名 日本糖尿病・肥満動物学会
第35回日本糖尿病性腎症研究会 2024年11月30日～12月1日 都市センターホテル（東京都）	岡山大学病院 新医療研究開発センター 副センター長 四方 賢一（しかた けんいち）	450名 日本糖尿病性腎症研究会

調査研究助成－1A（2024年度新規分 助成A：主にヒトを対象 5件）

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
<p>大阪大学 糖尿病病態医療学 寄附講座</p> <p>こざわ じゅんじ 小澤 純二</p>	<p>研究課題：最新の遺伝子解析技術を用いた免疫チェックポイント阻害薬投与に伴う1型糖尿病の発症予測、ならびに膵β細胞傷害の進展阻止を目指した病態解明</p> <p>研究期間：2023年4月～2027年3月（4年間）</p> <p>助成期間：2023年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成期間：<u>2024年度242万円</u>、2025年度 214万円、2026年度 244万円</p>
<p>筑波大学 内分泌代謝・糖尿病内科</p> <p>せきや もとひろ 関谷 元博</p>	<p>研究課題：新しいバイオマーカーの創出による糖尿病合併症の効率的な予測法の確立</p> <p>研究期間：2022年4月～2028年12月（6年9ヵ月間）</p> <p>助成期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成金額：<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円、2026年度250万円</p>
<p>北海道大学 免疫・代謝内科学</p> <p>なかむら あきのぶ 中村 昭伸</p>	<p>研究課題：糖尿病のデジタルヘルス医療へ向けた包括的代謝疾患マネジメント方針の確立</p> <p>研究期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成金額：<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円、2026年度250万円</p>
<p>千葉大学 内分泌代謝・血液・老年内科学</p> <p>まえざわ よしろう 前澤 喜朗</p>	<p>研究課題：糖尿病腎症とサルコペニアの発症進展を制御する腎筋関連バイオマーカーの探索</p> <p>研究期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成金額：<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円、2026年度250万円</p>
<p>大阪大学 社会医学講座 公衆衛生学</p> <p>かわさき りょう 川崎 良</p>	<p>研究課題：糖尿病網膜症のデータ・デジタル・デザイン思考による包括的研究</p> <p>研究期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成金額：<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円、2026年度250万円</p>

調査研究助成－1B（2024年度新規分 助成B：基礎研究主体 3件）

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
国立循環器病研究 センター研究所 心血管老化制御部 しみず いっぺい 清水 逸平	研究課題： 分泌型線維化促進分子を標的とした疾患横断的治療法開発 研究期間： 2023年4月～2028年3月（5年間） 助成期間： 2024年4月～2027年3月（3年間） 助成期間： <u>2024年度250万円、2025年度 250万円、2026年度 250万円</u>
北里大学 内分泌代謝内科 みやつか たけし 宮塚 健	研究課題： 膵β細胞由来血漿ペプチドの同定による新規アッセイ系の構築 －1型糖尿病の病態解明および治療法開発に向けて－ 研究期間： 2023年1月～2027年12月（5年間） 助成期間： 2024年4月～2027年3月（3年間） 助成金額： <u>2024年度250万円、2025年度250万円、2026年度250万円</u>
東北大学 外科病態学講座 救急医学分野 さんべい そう 三瓶 想	研究課題： 糖尿病患者の感染症重症化機序の解明 研究期間： 2019年1月～2027年3月（8年3ヵ月間） 助成期間： 2024年4月～2027年3月（3年間） 助成金額： <u>2024年度250万円、2025年度250万円*</u> 、2026年度250万円

*2年目分を2024年度12月に使用のため前払い

調査研究助成－2（2023年度継続分 4件）

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
<p>新潟大学 生活習慣病予防・ 健診医学講座 児玉 暁</p>	<p>研究課題： メタ解析に基づく、糖尿病合併妊婦の集中血糖管理による血糖改善効果と、母体・胎児予後改善効果との関連性の系統的調査</p> <p>研究期間： 2023年1月～2024年12月（2年間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2025年3月（2年間）</p> <p>助成期間： 2023年度200万円、<u>2024年度200万円</u></p>
<p>大阪大学 糖尿病病態 医療学寄附講座 高原 充佳</p>	<p>研究課題： 糖代謝異常合併妊娠における持続グルコースモニタリングを用いた血糖管理指標の検討</p> <p>研究期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成金額： 2023年度250万円、<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円</p>
<p>千葉大学 予防医学センター 越坂 理也</p>	<p>研究課題： 肥満症に対する減量介入が2型糖尿病を含む健康障害の長期的な改善に及ぼす効果を検証するレジストリ研究（SLIM-TARGET フォローアップ）</p> <p>研究期間： 2018年4月～2026年3月（8年間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成金額： 2023年度250万円、<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円</p>
<p>千葉大学 人工知能(AI)医学 川上 英良</p>	<p>研究課題： 人工知能技術を用いた糖尿病性腎臓病の発症・増悪機構の解明と最適な個別介入方法の提案</p> <p>研究期間： 2022年10月～2026年3月（3年6ヵ月間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成金額： 2023年度250万円、<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円</p>

調査研究助成 - 3 (2022 年度継続分 5 件)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
<p>自治医科大学 小児科 教授 嶋田 明 <small>しまだ あきら</small></p>	<p>研究課題： 小児がん経験者がメタボリック症候群を早期に発症する要因の 研究期間： 自 2022 年 1 月 至 2024 年 12 月 (3 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 200 万円、2023 年度 200 万円、<u>2024 年度 200 万円</u></p>
<p>滋賀医大 内科学名誉教授 箭川 聡 <small>やながわ ひろし</small> 横山内科 理事長 横山 宏樹 <small>よこやま ひろき</small> 一般社団法人糖尿病 データマネジメント 研究会 (JDDM)</p>	<p>研究課題： 全国多施設大規模共同研究による日本人糖尿病の生命・心血管 疾患・腎機能の予後と時代効果 — 第一次コホート研究と第二次コホート研究の比較を踏まえて — 研究期間： 自 2022 年 1 月 至 2025 年 12 月 (4 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 250 万円、2023 年度 250 万円、<u>2024 年度 250 万円</u></p>
<p>大阪大学 内分泌・代謝内科学 講師 片上 直人 <small>かたかみ なおと</small></p>	<p>研究課題： メタボロミクスによる糖尿病血管障害のバイオマーカー探索・リ スク予測モデルの作成と病態解明 研究期間： 自 2021 年 12 月 至 2026 年 12 月 (5.1 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 250 万円、2023 年度 250 万円、<u>2024 年度 199 万円</u></p>
<p>東京大学 糖尿病・代謝内科 客員研究員 門脇 孝 <small>かどわき たかし</small></p>	<p>研究課題： 2 型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に 及ぼすより長期的な影響の検討 研究期間： 自 2021 年 7 月 至 2026 年 6 月 (5 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 250 万円、2023 年度 250 万円、<u>2024 年度 250 万円</u></p>
<p>熊本大学生命科学研 究部代謝内科学/ 健康長寿代謝制御 研究センター 教授/センター長 荒木 栄一 <small>あらかき えいいち</small></p>	<p>研究課題： 常圧低酸素運動介入によるサルコペニア予防や、インスリン抵抗 性改善機序の解明 研究期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 250 万円 2023 年度 250 万円 <u>2024 年度 250 万円</u></p>

若手研究者調査研究助成（2024年度新規分 24件）

《200万円/件》

研究責任者	研究課題・研究期間
大阪大学 内分泌・代謝内科学 代謝血管学寄附講座 ながお ひろふみ 長尾 博文	研究課題： 組織常在性間葉系幹細胞由来エクソソームによる代謝調節機構 研究期間： 自 2025年2月 至 2027年1月 （2年間）
京都大学 農学研究科食品生物 科学栄養化学 まつい しゅう 松居 翔	研究課題： 糖質欲求を制御するエピジェネティクス制御機構の解明 研究期間： 自 2024年9月 至 2028年12月 （4年4ヵ月間）
川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌 内科 いわもと ゆういちろう 岩本 侑一郎	研究課題： β 細胞に着目したステロイド糖尿病発症メカニズムの解明 研究期間： 自 2023年3月 至 2026年2月 （3年間）
三重大学 分子生理学 やまかわ だいし 山川 大史	研究課題： FAPs の一次線毛を介した糖尿病性心筋症の病態形成機構を標的とした新規治療法開発 研究期間： 自 2023年4月 至 2026年3月 （3年間）
長崎大学病院 肝胆膵・肝移植外科 いまむら はじめ 今村 一步	研究課題： 膵島/脂肪由来間葉系幹細胞シート由来の細胞外小胞を用いた老化膵島"若返り"の研究 研究期間： 自 2025年4月 至 2027年3月 （2年間）
名古屋市立大学 消化器代謝内科 かとう あきひさ 加藤 晃久	研究課題： 膵性糖尿病の最多要因である慢性膵炎に対する SGLT2 阻害薬の線維化抑制効果の検討 研究期間： 自 2024年7月 至 2026年12月 （2年6ヵ月間）
東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌 内科 まとば けいいちろう 的場 圭一郎	研究課題： 糖尿病性腎症のエネルギー代謝動態から迫る新たな治療標的の探索 研究期間： 自 2025年4月 至 2027年3月 （2年間）
藤田医科大学 内分泌・代謝・糖尿病 病内科 はらぐち たくや 原口 卓也	研究課題： 糖尿病におけるグルカゴンシグナルによるインスリン分泌の分子細胞学的な機構解明と治療応用 研究期間： 自 2025年4月 至 2027年3月 （2年間）
金沢大学 内分泌・代謝内科 ごとう ひさのり 後藤 久典	研究課題： 糖尿病合併妊娠の周産期リスク低減を目指した基盤研究：臨床エビデンス構築と分子病態解明の統合的アプローチ 研究期間： 自 2025年4月 至 2027年3月 （2年間）

研究責任者	研究課題・研究期間
千葉大学 分子病態解析学 佐久間 一基	研究課題： 肝臓脂肪滴、細胞膜局在脂質による代謝異常関連脂肪性肝炎・糖代謝異常の病態進展メカニズムの解明 研究期間： 自 2025年3月 至 2027年3月 (2年1ヵ月間)
慶應義塾大学 産婦人科教室 かすが よしふみ 春日 義史 ※助成金額 132 万円	研究課題： コロナ禍における妊娠糖尿病診断基準の変更が周産期予後に与えた影響に関する検討 研究期間： 自 2025年2月 至 2026年3月 (1年2ヵ月間)
広島大学 医化学講座 なかつ ゆうすけ 中津 祐介	研究課題： 脂肪細胞の「質」に着目した糖・脂質代謝異常症の発症機序の解明 研究期間： 自 2024年4月 至 2027年3月 (3年間)
大阪大学 肥満脂肪 病態学寄附講座 おの でら としはる 小野寺 俊晴	研究課題： インスリンシグナルとアディポネクチン、線維形成制御に関する革新的研究 研究期間： 自 2025年4月 至 2027年3月 (2年間)
群馬大学 生体調節研究所 分子糖代謝制御分野 なかがわ ゆうこ 中川 祐子	研究課題： DNA 損傷による糖尿病発症のメカニズムの解明 研究期間： 自 2024年1月 至 2027年3月 (3年3ヵ月間)
岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌 内科 みせ こうき 三瀬 広記	研究課題： ミトコンドリア呼吸鎖複合体 I を標的とした糖尿病関連腎臓病の新規治療法の構築 研究期間： 自 2025年4月 至 2027年3月 (2年間)
九州大学 病態機能内科学 脳循環研究室 きよはら たくや 清原 卓也	研究課題： 血糖変動が脳卒中患者の転帰に与える影響：福岡県急性期脳卒中患者登録システムの検討 研究期間： 自 2025年1月 至 2027年12月 (3年間)
日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学) ひしかわ だいすけ 菱川 大介	研究課題： 授乳期における必須脂肪酸の供給とリン脂質への導入が肝細胞の成熟化と将来の MASLD 発症に与える影響 研究期間： 自 2024年4月 至 2026年3月 (2年間)
東京大学病院 糖尿病・代謝内科 みうら まさおみ 三浦 雅臣	研究課題： 加齢・糖尿病における味蕾幹細胞と幹細胞ニッチの機能解析 研究期間： 自 2025年4月 至 2027年3月 (2年間)
東京女子医科大学 糖尿病・代謝内科学 はない こう 花井 豪	研究課題： HDL のコレステロール引き抜き能を標的とした糖尿病関連腎臓病の新規治療法の確立に向けて 研究期間： 自 2024年4月 至 2028年3月 (4年間)

研究責任者	研究課題・研究期間
鳥取大学 循環器・ 内分泌代謝内科 おおくら つよし 大倉 毅	研究課題： 2型糖尿病の脂肪酸結合蛋白過剰分泌によるインスリン抵抗性の分子病態の解明 研究期間： 自 2024年4月 至 2027年3月 (3年間)
和歌山県立医科大学 薬学部生物科学 ひしだ ともあき 菱田 友昭	研究課題： 抗肥満手法開発を目指した脂肪細胞リプログラミングの基盤的研究 研究期間： 自 2024年4月 至 2026年3月 (2年間)
滋賀医科大学 薬理学講座 にし きよと 西 清人	研究課題： 新規栄養センサー分子による熱産生制御機構の解明と治療応用への展開 研究期間： 自 2022年10月 至 2026年9月 (4年間)
自治医科大学 薬理 学講座 臨床薬理学部 門 かつらだ けんいち 桂田 健一	研究課題： 視床下部一腎神経連関を標的とした肥満糖尿病における高血圧治療戦略 研究期間： 自 2025年4月 至 2027年3月 (2年間)
群馬大学 生体調節研究所 代謝疾患医科学 いしだ えみ 石田 恵美	研究課題： 食事と代謝に関連するホルモンが膵β細胞の脱分化に及ぼす影響の解析 研究期間： 自 2025年4月 至 2027年3月 (2年間)

2) 褒賞事業

・2024年度（第17回）鈴木万平糖尿病国内賞
個人、団体ともに該当なし

・2024年度（第17回）鈴木万平糖尿病国際賞

<p>受賞者</p> 	<p>Bernard Thorens, PhD. Professor Emeritus, University of Lausanne, Center for Integrative Genomics, Faculty of Biology and Medicine and Swiss Institute for Bioinformatics</p>
<p>推薦者</p>	<p>Dr. Marc Prentki, Montreal Diabetes Research Center and CRCHUM</p>
<p>受賞理由</p>	<p>The Selection Committee highly recognized his pioneering and landmark contributions over the years to understand the mechanisms of glucose sensing in the pancreatic islets and the neurons of the central nervous system for the control of blood glucose homeostasis and regulation of food intake. The Committee also highly recognized his pioneering contribution to the cloning and functional characterization of GLP-1 and GIP receptors in the pancreatic beta cells, which paved the way for the use of GLP-1 analogs in the treatment of type 2 diabetes.</p> <p>《日本語訳》 Thorens 博士は、血糖や食事量の調節におけるグルコースセンシングの機序を、膵島細胞や中枢神経系の神経細胞について明らかにされてきました。審査委員会は、これらの功績を長年にわたる先駆的で画期的な貢献と高く評価しました。 審査委員会はまた、同博士が膵β細胞のGLP-1受容体とGIP受容体を先駆けてクローニングし、その機能を明らかにしたこと、そしてこれがGLP-1類縁体の2型糖尿病治療への道を拓いたことも高く評価しました。</p>

3. 2025 年度公益目的事業

1) 助成事業（公1）

2024 年度第 1 回理事会（2024 年 5 月 28 日）で募集要領の承認を得て、7 月 16 日から 9 月 24 日まで 4 つの助成事業の募集を行った。なお、調査研究助成に関して前回 2024 年度募集同様、ヒト主体の調査研究 A 及び基礎主体の調査研究 B の 2 分野の研究助成を募集したが、認知度アップ施策も功を奏し、それぞれ前回の 2 倍の応募があった（A：18 件、B：13 件）。

申請資料に基づき 2024 年 11 月 15 日の選考委員会で、2025 年度助成候補（海外留学助成 4 名、会議・シンポジウム助成 7 件、調査研究助成 A 7 件、調査研究助成 B 6 件）が選出された。

しかし、海外留学助成については当初、選考委員会後 7 名の助成候補者を採択したが、4 名辞退者が出たため、1 名を追加採択したところさらに 3 名の辞退の申し出があり、結果 4 名の候補者となった。（辞退理由：5 名の全辞退者の内、4 名が既に他財団の内定済み、1 名が留学自体の取り止めによる）

また、同委員会で中間報告に基づき、調査研究助成（2024 年度合計 8 件：A5 件/B3 件、2023 年度 3 件）の助成継続が了承された。一方、外国人研究者招聘助成への応募はなかった。

選考にあたり、利益相反（COI）があると判断された応募委員は、会議・シンポジウム助成に関して 3 件/2 名、調査研究助成 A に関して 4 件/4 名、若手研究者調査研究助成で 2 件/2 名、調査研究助成（継続）に関して 3 件/1 名であり、それぞれ当該応募の審議には加わらなかった（退席はしない）。

海外留学助成候補者 4 名については、2024 年 11 月 26 日の面接選考会にて語学力を審査し、4 名全員を適格と判定した。

これら助成候補は、2024 年度第 2 回理事会（2024 年 12 月 19 日）で審議され、選考委員会・面接選考会での選考結果のとおり承認された。併せて上述の海外留学助成における辞退状況を踏まえ、当財団の設立趣旨の柱である「若手研究者育成」のための重要な取り組みと位置付けている「海外留学助成」の募集・選考時期の早期化についても承認され、2026 年度助成事業の募集期間を従来の 7 月～9 月より 4 月～7 月頃に設定することとした。

なお、海外留学助成決定者には助成決定証書の授与及び提出書類等の説明のために、2025 年 1 月 15 日にオリエンテーションを実施した。

2) 褒賞事業（公2）：2025 年度（第 18 回）鈴木万平糖尿病国内賞

2024 年度第 1 回理事会（2024 年 5 月 28 日）で募集要領の承認を得て、7 月 8 日から 9 月 11 日まで募集を行った。

推薦資料に基づき 2024 年 10 月 18 日の国内褒賞審査委員会で審査を行ない、受賞候補 2 件（個人 1 件、団体 1 件）を選出した。

審査結果は、2024 年度第 2 回理事会（2024 年 12 月 19 日）で審議され、審査委員会の審査結果のとおり承認された。

3) 褒賞事業（公3）：2025 年度（第 18 回）鈴木万平糖尿病国際賞

2024 年度第 1 回理事会（2024 年 5 月 28 日）、第 2 回理事会（2024 年 12 月 19 日）で募集要領の承認を得た。

附属明細書

1) 助成事業(公1)

海外留学助成(2025年度 4名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p style="text-align: center;">たなか さとし 田中 慧</p> <p>東京女子医科大学</p> <p>先端生命医科学系 専攻 統合医科学 分野</p>	<p>研究課題： 日本人における新規糖尿病発症遺伝子の特定とその病態の解明</p> <p>研究項目： 日本人特有の新たな糖尿病病原性遺伝子を特定し、その病態を解明することを目的とする。既知の原因遺伝子が特定されなかった日本人若年発症成人型糖尿病(MODY-X)患者 60名の DNA サンプルを用い、次世代シーケンサーによる遺伝子解析とヒト細胞を用いた分子レベルでの病態研究を行い、新しい糖尿病治療薬の開発に貢献する。</p> <p>研究機関： University of Exeter</p> <p>研究指導者： Kashyap Patel</p> <p>留学期間： 自 2025年9月 至 2027年8月(2年間)</p>
<p style="text-align: center;">むらお なおや 村尾 直哉</p> <p>藤田医科大学</p> <p>内分泌・代謝・糖尿病内科</p>	<p>研究課題： 膵β細胞の分化成熟および生存における細胞内代謝の役割の解明と再生医療への応用</p> <p>研究項目： ヒト ES 細胞から分化誘導した膵β細胞(β-like 細胞)について、分化・成熟・移植の各段階において細胞内代謝がどのように変化しているか、またその変化が細胞機能に与える影響について代謝フラックス解析を用いて解明する。さらに細胞内代謝の人為的な制御によってβ-like 細胞の成熟および生存を促進する方法を確立する。</p> <p>研究機関： Helmholtz Munich</p> <p>研究指導者： Matthias Hebrok</p> <p>留学期間： 自 2025年5月 至 2027年4月(2年間)</p>
<p style="text-align: center;">むた よしみ 牟田 芳実</p> <p>福岡大学</p> <p>内分泌・糖尿病 内科</p>	<p>研究課題： 解糖系律速酵素を標的とする糖尿病性腎症の新規治療法の開発</p> <p>研究項目： 腎糸球体における解糖系律速酵素 ENO1 は糖尿病性腎症(DN)の進展を抑制する因子である可能性がある。本研究では ENO1 ノックアウトマウスの DN 表現型の評価や、ENO1 遺伝子発現を制御した培養腎糸球体構成細胞を用いて高グルコース下による炎症やミトコンドリア機能障害に対する影響を解析し、治療標的としての確立を目指す。</p> <p>研究機関： Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： George L. King</p> <p>留学期間： 自 2025年4月 至 2027年3月(2年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p>やすだ たくま 安田 拓真</p> <p>京都大学</p> <p>糖尿病・内分泌・ 栄養内科学</p>	<p>研究課題： 運動における GIP シグナルの機能に着目したサルコペニアに対する治療戦略</p> <p>研究項目： 消化管ホルモンである GIP は、運動時に分泌が増加する一方で、加齢に伴う骨格筋量減少、筋力低下、運動耐容能低下に関与している。本研究では、運動が GIP シグナルを活性化させる機序を解明し、GIP シグナル阻害による骨格筋への影響を評価することで、サルコペニアの発症・重症化予防に資する治療戦略の開発を目指す。</p> <p>研究機関： Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Laurie J. Goodyear</p> <p>留学期間： 自 2025 年 6 月 至 2027 年 5 月 (2 年間)</p>

外国人研究者招聘助成 (2025 年度 0 件)

応募なし

会議・シンポジウム助成 (2025 年度 7 件)

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数/主催機関
<p>第 53 回日本膵・膵島移植学会学術集会 2026 年 2 月 20 日 ~ 2 月 21 日</p> <p>沖縄コンベンションセンター (沖縄市)</p>	<p>琉球大学 再生医学講座 教授 野口 洋文</p>	<p>250 名 日本膵・膵島移植学会</p>
<p>第 60 回日本臨床分子医学会学術集会 2025 年 4 月 19 日</p> <p>リーガロイヤルホテル大阪(大阪市)</p>	<p>大阪大学 代謝血管学寄附講座 准教授 西澤 均</p>	<p>200 名 日本臨床分子医学会</p>
<p>第 39 回日本糖尿病・肥満動物学会年次 学術集会 2026 年 2 月 13 日~2 月 14 日 ウイंकあいち (名古屋市)</p>	<p>横浜市立大学 分子内分泌・糖 尿病内科学 教授 寺内 康夫</p>	<p>300 名 日本糖尿病・肥満動物学会</p>
<p>第 36 回日本糖尿病性腎症研究会 2025 年 12 月 6 日~12 月 7 日 和歌山城ホール (和歌山市)</p>	<p>和歌山県立医科大学 腎臓内科学 教授 荒木 信一</p>	<p>350 名 日本糖尿病性腎症研究会</p>

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数/主催機関
第25回日本糖尿病インフォマティクス学会 年次学術集会 2025年8月30日～8月31日 ホテルマリターレ (佐賀市)	佐賀大学病院肝疾患センター 肝臓・糖尿病・内分泌内科 センター長/特任教授 高橋宏和	240名 第25回日本糖尿病インフォマティクス学会事務局 (佐賀大学)
第24回日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会 2025年10月11日～10月12日 報徳会館 (小田原市)	東海大学 腎内分泌代謝内科 准教授 豊田 雅夫	200名 日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会(兵庫医大)
第30回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会 2025年7月21日 日本教育会館 (東京都)	東京女子医科大学 糖尿病・代謝内科 准教授 三浦順之助	250名 日本小児・思春期糖尿病学会

調査研究助成 A (2025 年度 7 件)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
<p>金沢大学 内分泌代謝内科学 たけした ゆみえ 竹下 有美枝</p>	<p>研究課題： 骨格筋・心臓・腎臓・肝臓特異的交感神経活動評価法の確立と糖尿病治療薬の作用 研究期間： 2020年10月～2027年6月 (6年9カ月間) 助成期間： 2025年4月～2027年6月 (3年間) 助成期間： <u>2025年度250万円</u>、2026年度 250万円、2027年度 77万円</p>
<p>大阪大学 代謝血管 学寄附講座 にしざわ ひとし 西澤 均</p>	<p>研究課題： 日本人のための新たな食嗜好質問表の開発と大規模調査を通じたその臨床的意義の検証 ～食行動・食嗜好に着目した新しい栄養指導法の確立～ 研究期間： 2024年4月～2028年3月 (4年間) 助成期間： 2025年4月～2028年3月 (3年間) 助成金額： <u>2025年度250万円</u>、2026年度 250万円、2027年度 250万円</p>
<p>糖尿病データマネジメント研究会 (JDDM) 横山クリニック よこやま ひろき 横山 宏樹 滋賀医大名誉教授 まえばわ ひろし 前川 聡</p>	<p>研究課題： 全国多施設大規模共同研究による日本人糖尿病の生命・心血管疾患・腎機能の予後と時代効果-第三次コホートの設立と第一次・第二次コホート研究との比較 研究期間： 2025年1月～2028年12月 (4年間) 助成期間： 2025年4月～2028年3月 (3年間) 助成金額： <u>2025年度250万円</u>、2026年度 250万円、2027年度 250万円</p>
<p>京都大学 糖尿病・内分泌・栄 養内科学 やべ だいすけ 矢部 大介</p>	<p>研究課題： 一細胞遺伝子・エンハンサー同時解析による日本人1型糖尿病の免疫遺伝学的機序の解明 研究期間： 2025年4月～2029年3月 (4年間) 助成期間： 2025年4月～2028年3月 (3年間) 助成金額： <u>2025年度250万円</u>、2026年度 250万円、2027年度 250万円</p>
<p>順天堂大学 代謝内分泌内科学 かが ひでよし 加賀 英義</p>	<p>研究課題： 1型糖尿病における月経周期による臓器別インスリン感受性の変動 研究期間： 2025年4月～2028年3月 (3年間) 助成期間： 2025年4月～2028年3月 (3年間) 助成金額： <u>2025年度150万円</u>、2026年度 230万円、2026年度 150万円</p>
<p>熊本大学病院 糖尿病・代謝・内 分泌内科 せのくち たかふみ 瀬ノ口 隆文</p>	<p>研究課題： 前心不全状態の糖尿病患者における心不全進展危険因子抽出とリスク 研究期間： 2025年1月～2029年12月 (5年間) 助成期間： 2025年4月～2028年3月 (3年間) 助成金額： <u>2025年度250万円</u>、2026年度 250万円、2026年度 250万円</p>

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
東京大学 糖尿病・代謝内科 <small>やまうち としまさ</small> 山内 敏正	研究課題： 2型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼす20年間（介入10年間、追跡10年間）の影響の検討 研究期間： 2021年7月～2028年3月（6年9カ月間） 助成期間： 2025年4月～2028年3月（3年間） 助成期間： <u>2025年度250万円</u> 、2026年度 250万円、2027年度 250万円

調査研究助成 B（2025年度 6件）

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
大阪大学 内分泌・代謝内科学 <small>しもむら いちろう</small> 下村 伊一郎	研究課題： 新規 SREBP ユビキチンリガーゼ ARMC5 による内臓脂肪蓄積/脂肪肝炎/糖尿病病態の解明と治療法開発 研究期間： 2025年4月～2028年3月（3年間） 助成期間： 2025年4月～2028年3月（3年間） 助成期間： <u>2025年度250万円</u> 、2026年度 250万円、2027年度 250万円
東京大学病院 腎臓・内分泌内科 南学正臣研究室 <small>たなか しんじ</small> 田中 真司	研究課題： 腎神経を標的とした糖尿病関連腎臓病新規治療法の開発 研究期間： 2025年4月～2028年3月（3年間） 助成期間： 2025年4月～2028年3月（3年間） 助成金額： <u>2025年度250万円</u> 、2026年度 250万円、2027年度 250万円
奈良女子大学 生活環境学部 食物 栄養学科 <small>いなだ あかり</small> 稲田 明理	研究課題： 糖尿病β細胞の増殖誘導に寄与する因子とその特性 研究期間： 2024年4月～2028年3月（4年間） 助成期間： 2025年4月～2028年3月（3年間） 助成金額： <u>2025年度250万円</u> 、2026年度 250万円、2027年度 250万円
金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学 <small>くましろ なおき</small> 熊代 尚記	研究課題： 脂肪との共存の実現へ向けた SLC28A1 の予防・治療標的としての可能性の追究 研究期間： 2024年4月～2028年3月（4年間） 助成期間： 2025年4月～2028年3月（3年間） 助成金額： <u>2025年度250万円</u> 、2026年度 250万円、2027年度 250万円
東京大学 先進代謝病態学 <small>すずき けん</small> 鈴木 顕	研究課題： ゲノム情報と生成 AI を活用した新規2型糖尿病治療薬の探索 研究期間： 2024年4月～2029年3月（5年間） 助成期間： 2025年4月～2028年3月（3年間） 助成金額： <u>2025年度250万円</u> 、2026年度 250万円、2027年度 250万円

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
慶應義塾大学 腎臓内分泌代謝内科 かわの よしなが 川野 義長	<p>研究課題： 高ショ糖による慢性炎症の誘発機序の解明と次世代型糖尿病寛解プログラムの創出</p> <p>研究期間： 2024年4月～2028年4月（4年1ヵ月間）</p> <p>助成期間： 2025年4月～2028年3月（3年間）</p> <p>助成期間： 2025年度 250万円、2026年度 250万円、2027年度 250万円</p>

2) 褒賞事業(公2)

2025年度(第18回)鈴木万平糖尿病国内賞

[個人]	
橋本 祐子 氏 医療法人社団 亮仁会 那須中央病院 看護師	
推薦者	内海 香子 氏 (日本糖尿病教育・看護学会 理事)
選考理由	<p>2006年よりとちぎ糖尿病スタッフの会の理事を務め、2021年からは「とちぎCDEJの会」を立ち上げ、会長として牽引・活動し、多くのCDEJの資格保留に貢献してきた。また、フットケアや高齢糖尿病患者の看護にも精通し、各種研修会の開催や講演を通じて栃木県近隣の医療者の教育・支援に尽力しており、コロナ禍でのWEB開催では、その活動が全国的に知られた。さらに、その啓蒙活動は介護施設にも及び、訪問看護ステーションとの連携強化にも貢献している。</p> <p>これらの活動には一貫性があり、所属施設を越えた活動の難しさが時にある中、一看護師としてできる糖尿病地域医療における活動の先駆的なモデルとして、波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。</p>
[団体]	
神奈川県内科医学会糖尿病対策委員会 (代表 松葉医院 院長 松葉 育郎氏)	
推薦者	寺内 康夫 氏 (日本糖尿病学会 理事)
選考理由	<p>1980年代から長きにわたり、神奈川県内の地域に根差した開業医が中心となって、大学などの医療機関、行政、患者団体、KLCDEと有機的に連携することで、県内の実情に合わせた糖尿病対策を推進してきた。特に、非専門医や医療従事者への研修会開催による継続的な啓発活動は県内の糖尿病診療の向上に多大な貢献をしたと共に、糖尿病合併症予防や重症化予防、学術活動にも精力的に取り組み成果を得てきた。その包括的かつ組織的活動は「神奈川モデル」として日本全国の多くの医師に広く認知され、影響を及ぼす成功例となっている。</p> <p>これらの活動は長きに亘り、一貫性があり、その波及効果も大きく、上記の業績は本賞に値する。</p>